

《症例報告》

ペースメーカー植え込み後に ^{123}I -BMIPP 心筋 SPECT で心室中隔の集積低下および洗い出し亢進を認めた 2 症例

伊藤 一貴* 杉原 洋樹** 全 完* 彦坂 高徹*
足立 芳彦* 米山 聡嗣* 加藤 周司* 木下 法之***
中村 智樹*** 東 秋弘***

* 朝日大学附属村上記念病院循環器内科

** 京都府立医科大学放射線科

*** 同 第二内科

要旨 症例 1 は完全房室ブロックに対して DDD 型の心臓ペースメーカーを植え込んだ 62 歳の女性、症例 2 は洞不全症候群に対して VVI 型の心臓ペースメーカーを植え込んだ 70 歳の女性である。両症例とも術前の心臓超音波法、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -tetrofosmin 心筋 SPECT および ^{123}I -BMIPP 心筋 SPECT は正常であった。また、左室造影では壁運動異常はなく、冠動脈造影では狭窄病変や冠攣縮は認められなかった。ペースメーカー植え込み後、両症例の心電図は左脚ブロック型のペーシング波形になり、心臓超音波法では中隔領域で壁運動平低と asynchrony を認めた。両症例とも 1 年後の ^{123}I -BMIPP 心筋 SPECT では初期像で中隔領域の集積低下、後期像で同部位での洗い出しの亢進が認められたが、ATP 負荷 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -tetrofosmin 心筋 SPECT は正常であった。 ^{123}I -BMIPP 心筋 SPECT の初期像における集積低下は、伝導障害により生じた心筋の収縮力低下およびエネルギー代謝低下により脂質プールに蓄積される脂肪酸の量が低下することを反映していると考えられた。また、後期像における洗い出し亢進は、エネルギー代謝の低下により余剰となった BMIPP が脂質プールから血液中に turnover されるのを反映していると考えられた。

(核医学 37: 115-120, 2000)